



で変わっているような状態だったのですが、それではいけないと思い、一度しっかりと自分をみつめなおし、会社の存在意義や価値、目指すべき姿や何のためにやっていくのか、といったようなことを時間かけてひとつひとつ紐解いていきました。いわゆる経営指針作成に着手したというものなのですが、自己と自問自答を何回も繰り返して悩みながら指針を削り上げました。完成したときは進むべき道というか、自分の生き方が少しみえたような気がしました。進むべき道や方向が決まればあとはそれを実行するのみですから、指針が出来た時には何か曇っていた空がどんどん晴れ上がっていくような気持ちになりました。ただこうした指針を作るだけではあまり意味がありませんので、1年に1回必ず見直し、毎年1月にスタッフに向けて発表します。社会情勢や会社を取り巻く環境が色々と変化をする中で不安や躊躇を感じる時はもちろんありますが、指針をしっかりと読み自分のやりたいことややらねばならないことを再度腹に落とし、強い信念を奮い立たせるよう心掛けています。

命のバトンを次世代に繋ぐのが我々の役割

我々の仕事は私の仕事のことを、自分の人生で全うすべきものであると考えておりますので仕事を志事と呼んでいます。志の事ですね。水と空気を通じて人々の命を後世につなぐことに尽きると捉えています。言い換えると、事業を通して人々の「当たり前

な生活」のお手伝いをするということです。蛇口をひねれば水が出る、暑い夏は冷房、寒い冬は暖房がある、そんな当たり前の生活を当たり前前に出来る様に裏方としてサポートすることがあります。普段は脚光を浴びることは多くありませんが、命のバトンを次世代になく役目と言い換えることも出来ますので、この役割に覚悟と誇りを持ち、「命のつなぎ屋」としての使命をこれからも全うしていきたいと考えています。安心、安全な生活が送れるお手伝いをさせて頂いているわけですから、人々がいつもどおりの生活になげなく送れていることがなよりの喜びかもしれません。

関わる人すべてが幸せを感じられるように

事業を通じて弊社と関わる方全て(家族、社員、顧客、お取引先様、下請けとしてやってくれる職人さん)達は幸せを感じられる様にしていきたいですね。それぞれ幸せを感じる基準は違うと思いますが、私は「和敬清寂」という言葉を大切にしています。「和」とは心を開いてお互いが仲良くすると言うこと、何を今更と思われるかもしれませんが、大人になればなるほど自尊心や色々なことが邪魔をして出来ない場合が多いと思うのです。何をやるにしても一人では何も出来ません、関わる人とコミュニケーションを取る上で非常に大切だと考えています。そして「敬」とはお互いが相手を敬うことです。頭では分かっているつもりもいついかなるか忘れることがあります。顧客であって友人であれ相手が誰であっても、立場や役割に関係なく人は平等でお互いに敬う心を持つことが重要です。「清」とは、清らかな心です。邪念や自身のみの利益を考えるのではなく、正しい心で正しい道を進むにはどうしたら良いのか?を常に自問自答すること。判断に迷ったとき、どうすることが本当に正しい道なのか?と言う視点で物事を捉えることが大事です。最後の「寂」ですが、何事にも乱されない不動の心です。簡単なことではありませんが、どんな時でも心がぶれないようにいついかなる時も心の余裕

を持つことです。これは色々なことを想定して、準備を怠らないようにすることで可能になる。私はそう考えています。

人間力が大切なこの時代に大切なこと

経営指針の中にも明記し常々意識していることがあるのですが、それは「三方よし」を心がけよう、というものです。お客様を含めた取引先もよし、弊社もよし、その結果世の中もよし、これを日々の行動の規範や迷った時の判断基準のひとつにしています。故この「三方よし」を大切にしようとしたのか?ここには特に深い意味はありません(笑)近江商人の思考方法であると、何かで読んだことがあるのですがこれを読んだ時に「これはいいな!よし一度使ってみよう!」と言わねば軽いノリの様なものが始まったのですが、この言葉の重みを日々痛感する毎日です。単純に言えば、「自分だけがいい思いをするのはだめだよ、ちゃんと相手のことも考えて行動しないといけないね」と言う考え方なのですが、これが言うのは簡単ですが行うのはなかなか難しいのです。スタッフ一人一人、毎日いろんなお客様や業者さんとの打ち合わせや、工事現場にて工事を行っています。いろんな局面にて様々な判断をしなければいけないのですが、瞬間的に判断を求められることも多くその時に自社のことを考えるのではなく、「三方よし」を意識することで判断内容も変わってきますし、長い目で見れば結果的にその方が会社にとって良い判断のことが多いのです。特に今は、仕事が出る出来ないよりも前に「一人の人間として」どうあるべきか?人として「個の人間力が問われる時代」です。お客様の多くは会社ではなく、直接会う「人」を見ています。いくら普段カッコイイことを言っているても何か起こった時に普段話している内容と行動が違えば信用はしてもらえません。常に「三方よし」を意識することで人格や人間性が向上し、結果的に仕事能力が向上していくのではないかと考えています。

世の中に必要とされる集団で在り続ける為

す。

そもそも一つ、判断基準にしていることが《それは、専門家として恥ずかしくない仕事ですか?》《それは、相手を幸せにするいちばんいい方法ですか?》《を考えると三言二語です。仕事をしていると色々なことが起こります、様々な状況が重なってベストな方法ではなくベターな方法にしてしまえばいい場面もあります。弊社の経営方針の中で5つの基本姿勢と言うのがありますが、その中の一つが「理想の追求に対する基本姿勢」です。これは一つ一つの仕事に一生懸命に全力で向かうことで人様に喜んで頂き、結果として世間から必要とされる役割を与え続けられる。という考え方です。荒木空調でない嫌だ!荒木さんのところの〇〇さんに是非!と言うように人々から求められ、世の中に必要とされる集団で在り続けるために一つ一つの仕事を妥協は許さず、《専門家として恥ずかしい仕事ですか?》《相手を幸せにするいちばんいい方法ですか?》を意識し、仕事を完遂するようにしています。

「当たり前」が崩れた時に生まれる会社の存在意義

我々が必要とされる場面の多くが「人々の当たり前」の生活が当たり前じゃなくなった時です。水が出ない、水が漏れてくる、トイレが詰まった、トイレの水が止まらない、お湯がなくてお風呂に入れない、エアコンが効かない、エアコンから変な音がする...そういった普段は当たり前に使っているものが当たり前前に使えなくなった時です。特に今年は30数年ぶりに北陸は大雪に見舞われ、あらゆる御宅にて水道管の凍結や破裂により、水が出ないからなんとかして!という問い合わせが非常に多く寄せられました。スタッフと一緒に行ったある御宅の修理が終わりに《お水できるようにになりましたよ》というその御宅の奥様は《あー、よかった、普段は気にせず使っていて気づかなかつたけれどやはり水って大事やねー、ありがたうありがたう》と言っていた。これは、これこそ弊社が存在する意義であり、まさに志事であることを実感し、とても誇らしげな気持ちになりました。